



教育研修

No.136 (令和2年11月1日)

おもな内容

	ページ
随 想	1
研修講座寸描	2～4
出前講座寸描	4
17次研修事業計画策定	5
「資質と能力を育む指導と 評価の一体化を目指して」	6
心に残る授業 その⑧	7
I C T実技研修講座レポート	7
研究室だより 各種お知らせ (Webサイト・資料室)	8

「一年生、生活科「きれいな はなを さかせる」の授業の様子です。大切に育ててきた朝顔の思い出を形にしておくと残るために、花を半紙とクリアファイルで挟み、こすり染めをしました。浮き出してくる朝顔の模様を見て、子供達は「きれいにできた」と満面の笑みを浮かべていました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、どうすれば授業を進められるかを常に全教職員で考え取り組んでいます。このような状況だからこそ、子供達を笑顔にする授業づくりに今後も邁進していきたいと思っています。(旭川市立共栄小学校)

随 想



「学び」を止めない

上川教育研修センター

副所長 伊 東 義 晃

「この日」が来るまでの一か月半程、時間の経過がこれほどまでに遅いと感じたことはありませんでした。

新年度に入ってから新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、四月中旬から五月末までの間、小中学校が一斉休校となりました。これほどの長期にわたる休業は過去に例を見たことがありません。同時に町中から子どもたちの歓声や元気な姿が消えてしまいました。この前代未聞の事態に接し、言葉にならないくらいに大きなショックを覚えました。

さて、上川教育研修センター（以下、センターという）といえば、教職員を中心に常に多くの方々が利用し、とても活気に満ち溢れている施設というのが大方の皆さんが抱いているイメージだと思います。「早めに行かないと駐車場がすぐに満杯になるよ」が、センターに行く際の合言葉にもなっているほどです。しかしながら、ここも学校の休校措置と同様に、隣接する公共施設とともに閉館措置となりました。利用者の姿が消えたセンター一帯は、まるでゴーストタウンのようになりました。

それだけに、四月からここで仕事をさ

せていただくことになった私にとりまして、日常の光景が戻り始めた「六月一日」のことが、強く心に焼き付いています。学校が再開され、久しぶりに小中学生が通学する姿、センターの目の前の小学校から聞こえてくる子どもたちの元気な声やグラウンドを走り回る姿を目の当たりにし、心の底から喜びを感じました。同時に、新年度になってから中止していた研修講座実施の目処が立ち始めた日となり、所員一同で、「この日」の感動を分かち合いました。

今年度は、各教科等の全国・全道大会をはじめ、上川管内教育研究会や旭川市教育研究会の活動が中止となっていました。こうした中、教職員の研修確保に向け、講座を開催しているセンターの役割は、一層重要になると受け止めています。各学校においては、「子どもの学びを止めない」を合い言葉に、教職員が一丸となって、創意工夫あふれる教育活動が積み重ねられております。その学校を支えるべく、センターにおいても、「教職員の学びを止めない」を所員一同が胸に刻み、コロナ禍を見通した研修講座の実施に全力を注いでいきたいと思っています。

小中併設併置校である本校では、総合的な学習の時間に「演劇活動」を位置付け、九年間を見通した指導計画を作成しています。演劇の街として富良野演劇工場からの指導を受け、毎年行われる富良野演劇祭に参加しています。異学年同士が、多様な自己表現方法を身に付け、互いの良さを認め合うことで、全員ですばらしい演劇を創り上げています。(富良野市立布部小中学校)



センター日誌

- 7月7日 夏季拡大研究室会議
- 7月28日 センター組合教育委員会会議
- 7月28日 研究室夏季集中研
- 8月18日 センター組合議会定例会
- 8月28日 道研連研究発表大会(上川大会)
- 11月1日 センターだより第136号発行
- ※ 毎週火曜日 定例研究室会議
- ※ 随時 研修講座講師打合せ会議

研修講座寸描

講座の様子から

この講座で、複式校のある地域の特色や、複式学級の良さと課題、指導形式などを知ることができました。また、学習の流れや指導案、実践例の資料も多く、自分の学級での指導に取り入れることができました。ありがとうございました。
(上富良野町立東中小学校 小山 裕子)



7 複式教育 7/7(火)

講師

菅原 彰 (嵐山小 二階堂めぐみ (富沢小 校長) 教諭)



8 音楽科指導 (実技) 7/8(水)

講師

芳賀 均 (北海道教育大学 旭川校 講師) 教諭
西森 加奈 (神居東中 教諭) 教諭
掛川 綾子 (東陽中 教諭)

研修の中で、鑑賞と表現を別々にせず行うことの有用性を学ぶことができました。また、ICTの活用のメリットと活用方法を学ぶことで、子ども達のために積極的に活用していこうと思いました。御指導ありがとうございました。
(幌加内町立幌加内中学校 菊地 和司)

9 ICT活用 7/9(木)

講師

館山 朋宏 (春光台中主幹教諭) 教諭
山口 徹也 (東明中 教諭)



GIGAスクール構想が進む中で、本講座に参加できたことに大変感謝しております。模擬授業や講話を通して、授業でのICT活用場面だけではなく、学校運営の中での活用も考えることができました。御指導ありがとうございました。
(当麻町立当麻小学校 福井 秀晃)

10 図工・美術科指導 (実技) 7/15(水)

講師

南部 正人 (北海道教育大学 旭川校 教授) 教諭
妻木 新 (正和小 教諭)

研究授業では、児童の作品に対する見方、感じ方を授業者が受け止める姿を拝見し、図工の鑑賞の魅力を強く感じました。また、感染症対策も徹底されており、児童の実態や社会的な状況に合わせた指導を学ぶことができました。御指導ありがとうございました。
(旭川市立旭川小学校 小足ときね)



11 国語科指導 7/28(火)・9/2(水)

渥美 伸彦 北海道教育大学 准教授
 善方 幸 旭川校 教諭
 小泉 幸男 (比布町立中央小教諭)
 坂本貴代枝 (神楽中 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ



小学校と中学校で「読むこと」における授業を参観しました。どちらの授業にも①言葉の共有化②言葉や文化の比較とつながり③納得と共感という共通した部分があり、授業時に大切な観点を学ぶことができました。ありがとうございました。

(占冠村立占冠中学校 戸田 真僚)



12 生活科・総合的な学習の時間 7/28(火)・9/8(火)

Ⅱ 講師Ⅱ

荒川 義弘 (高台小 校長)
 鈴木 和彦 (向陵小 主幹教諭)
 竹内 静 (西御料地小 教諭)
 福岡 伸康 (桜岡中 教諭)

二つの授業を拝見し、思考ツールの活用やパソコンを用いた探究活動の指導法など学ぶことができました。また講話の中では探究課題の選定についても教えていただき、次年度以降の取組のヒントも得られました。御指導ありがとうございました。

(中川町立中央小学校 小寺 康輔)

14 幼保小連携教育 7/29(水)

片桐 正敏 北海道教育大学 准教授
 北川有希子 旭川校 教諭
 小野寺桂一 (旭川あゆみ幼稚園 園長)
 (新町小 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ

今回の講話で、小学校への引継ぎの際、「TASP」を利用することにより、子供を見る視点を整理することができそうだと感じました。是非、「TASP」を利用したいと思います。御指導ありがとうございました。

(認定こども園ひまわり幼稚園 蛇見 啓介)



19 教育相談 (いじめ・不登校等) 8/5(水)

Ⅱ 講師Ⅱ

ブルックス (公立学校 重由美 スクールカウンセラー)
 佐藤 研二 (広陵中 教諭)

現場の最前線で様々なケースに対応しておられる講師の方のお話をうかがい、とても勉強になりました。時系列で記録を残すこと、スクールカウンセラーとの効果的な連携の仕方などを知ることができて、有意義な機会となりました。

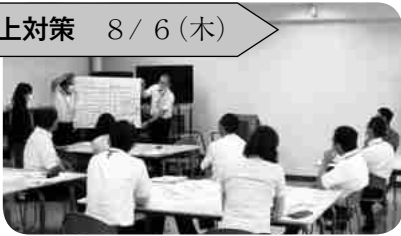
(旭川市立啓北中学校 佐藤 繁隆)



21 学校力向上対策 8/6(木)

水上 丈実
玉井 一行
平井 佐知
（青雲小）
北海道教育大学
教授
校長
教諭

講師Ⅱ



講話では組織マネジメントの肝や世代の違いを生かした人材育成の大切さを学びました。また、交流では十六年ぶりにかつての同僚と再会し楽しく有意義な時間を過ごしました。「全ては子どもたちの笑顔のために！」を再確認しました。

（土別市立系魚小学校 鈴木 良人）

22 学校・家庭・地域の連携 9/1(火)



学校と地域が、世代交代しながら、永く継続的に連携していける関係をつくるために、コーディネートとして何をしたらいいのか、しっかりと考えることができました。今後、つねにそのことを頭において活動していきたいと思っています。

（土別市教育委員会 小林 正子）

小島 紀行
（土川教育局教育支援課
社会教育指導班 主査）
桑原 啓成
（富良野市立東小
校長）

講師Ⅱ

東五条小「授業の流れ・アクティビティ」 7/30(木)



【講師：井澤 広美（北光小 教諭）】
書く活動の指導と評価について、子どもが書いた英文をもとに、評価の演習をし、評価例を示していただき、分かりやすく参考になりました。また、聞く活動の体験を通し、教師の関わり方も学びました。御指導ありがとうございました。（旭川市立東五条小学校 西山あずさ）

幌加内小「効果的な指導・合理的配慮」 7/29(水)



【講師：鹿本 俊一（夢を紡ぐ 教諭）】
「頑張れ」という言葉の曖昧さを知り、改めて支援のあり方について考えることができました。どうしたら頑張ったことになるのか目標を明確にし、学びの機会ごとにたくさん「できた」を実感できる授業作りを大切にしていきます。（幌加内町立幌加内小学校 高橋 祐奈）

出前講座寸描

北鎮小「英会話・ゲームと評価」 8/28(金)



【講師：木下 貴義（東光小 教諭）】
外国語の授業の導入時に役立つ英会話ゲームや、指導者が使えるとよい英語の相づちなど、実技を通して御教示いただきました。また、評価する時に見取るポイントも示していただき、ありがとうございます。授業改善に生かしていきます。（旭川市立北鎮小学校 千田 友美）

東明中「校内支援体制」 8/25(火)

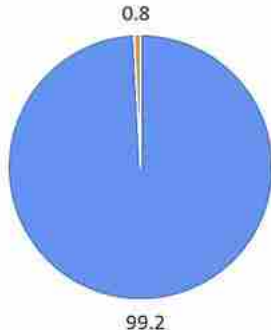


【講師：目良 久美（美瑛町教育委員会管理課 参事）】
通常の学級に在籍する生徒への対応についての講座をしていただき、授業で感じていた悩みが解消されました。また、今回話していただいた多様な指導方法は今後の授業に生かしていきたいと思っています。御指導ありがとうございました。（旭川市立東明中学校 小林 大以雅）

第17次研修事業計画策定に向けて

～アンケートへの御協力ありがとうございました～

I 基本方針の策定について



・99%の方から、「この方針でよい」とする回答をいただきました。

＜第17次研修事業計画の基本方針＞

- ① 教科指導等をはじめとした講座については、「小中合同、講義（夏季休業中）と研究授業（2学期）の分離開催」とした現在の講座形式を継続しつつ、内容の一層の充実を図る。
- ② 教職員の経験、職種に応じた講座を設定し、ライフサイクルに基づく研修の場として必要な資質を中心に内容の充実を図る。
- ③ 新学習指導要領の方向性や内容に合わせた講座内容の充実を図る。
- ④ 第16次の開設講座の中でも、一定の役割を終了した講座は継続しない。講座数や内容については精選する。また、働き方改革が進んでいることから、受講者が参加しやすい日程を設定する。
- ⑤ 学校（地域）や教育研究団体等のニーズに応える「出前講座」の充実を図る。

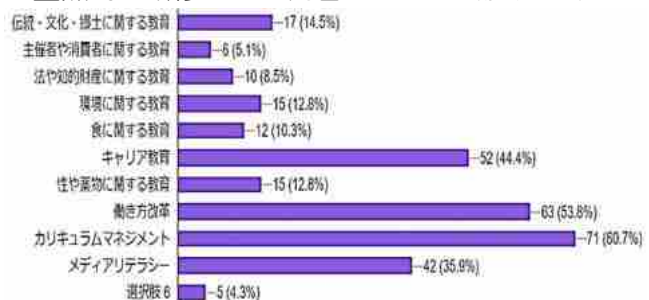
II 開設講座について

(1) 講座の開設数について



・96%の方から、「現状でよい」とする回答をいただきました。

(2) 重点的に研修したい内容について（複数回答）



・上位3つは①カリキュラムマネジメント②働き方改革③キャリア教育です。

III ICT実技研修について

(1) 役目を終えたと思われる講座

- ・校務のための表計算入門、校務のための表計算活用

※実際には校務によって必要としている先生方も多くいます。

(2) 新設を求める講座

- ・遠隔授業、GIGA スクール構想に向けて、プログラミング教育、タブレット活用、ICT機器の活用 等

IV 講座全般にかかわる御要望など

＜実施内容について＞

- ・教員の経験年数、自己課題解決など、多様なニーズに応えた講座構成となっており、特に若手にとっては有意義な研修機会となっています。
- ・理論と実践をセットで学ぶ方式はよいと思います。
- ・児童生徒・先生方の資質能力の向上に直結する講座に期待しています。

＜実施形態について＞

- ・参加しやすい日時を設定してほしいです。
- ・午後からの日程だと参加できる先生が増えると思います。
- ・コロナ禍での運営に感謝申し上げます。

○学校・各団体併せて129通の御回答をいただきました。御多用のなか、御協力いただき心からお礼申し上げます。
○お寄せいただいた貴重な御意見を参考にさせていただき、第17次の基本構想と講座計画の詳細を作成します。
○今後とも、当センターに対する御意見や御要望をお寄せください。

第18次研究1年次

資質と能力を育む指導と評価の一体化を目指して

研究主題「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」の解明に向け、センター所員が研究授業を行いました。

研究員2年目 鷹栖中学校 村越 恵一

中学校第3学年 数学科「式の計算」

つけたい資質能力・目標の確認

単元の目標

- (1) 多項式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。(知識・技能)
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 文字を用いた式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。(主体的に学習に取り組む態度)

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
15	◎今まで学習した内容を振り返りながら、問題を解くことができる。 ○基本のたしかめ ○小テスト ○本時の学習を振り返る。	記録⑥ ・小テスト		記録⑥ ・振り返りシート 学習の結果や過程を振り返り、わかったことや疑問を記述している。
16	◎乗法公式や因数分解の公式を活用して、数の計算を簡単にすることができる。 対話的な学び ○問題を把握する。 右の図は、正方形を組み合わせたものです。色をつけた部分の面積を求めてみよう。 ○問題を把握する。 87-13を工夫して計算しよう。 ○乗法公式を活用して計算する方法を考える。 ○練習問題に取り組む。 ○本時の学習を振り返る。	指導⑥ ・ノート ・発言 用いる公式を的確に判断し、効率よく式の値を求めることができる。 指導の手立て 式を簡単にしてから代入する方法と比較させる。	指導⑥ ・振り返りシート 毎時間の学習の振り返りを行い、学習の達成状況を確認している。	指導⑥ ・振り返りシート 毎時間の学習の振り返りを行い、学習の達成状況を確認している。
17	◎乗法公式や因数分解の公式を活用して、図形の性質を調べることができる。 対話的な学び ○問題を把握する。 正方形の土地Aがある。土地Aの縦を2m縮め、横を3mのばした土地Bがある。土地Aと土地Bでは、どちらが大きいだろうか？	指導⑥ ・ノート ・観察 解決にむけて乗法公式を使って考えることができる。	指導⑥ ・観察 式の計算について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	指導⑥ ・観察 式の計算について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

指導計画・評価計画

〈何を どこで 何で そして手立ては の設定〉

単元の目標を基に、指導計画全体を見通して各時間に何の観点で何を使って評価するかを考えていきます。1時間に1観点を基本とします。しかし、数時間のまとまりで、複数観点も考えられます。

さらに各時間の評価を焦点化するために

【指導に生かす評価】

観察や発言、ワークシート等への記述内容などを基に、個に応じた指導や授業改善に生かすことを目的として日常的に行うもの

【記録に残す評価】

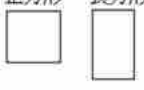
ノートや作品など、全ての生徒から集める成果物を参考にしながら、主として総括的評価の資料とすることを目的として行うものを明確にして配置しました。

観点ごとの総括

【本時は、どの場面で評価するのか
評価規準に達しない生徒への手立ては】

単に生徒の正答率を見て評価するのではなく、自分の考えを記述させたり、発表させたりして、生徒の思考したことを見取ることが必要です。その際、生徒がどのようなことを発言、記述できれば目標を達成したと言えるのかという具体的な姿を想定しておくことが大切です。

本時では、練習問題の場面で、比較するために乗法公式を活用して式を整理することができるか評価を行いました。

7 練習問題	正方形AとAの縦を伸ばし、伸ばした分と同じ長さ横を縮めた長方形Bがある。正方形は長方形よりどれだけ大きくなりますか？ 正方形 長方形 	・正方形の1辺をxとする。 ・同じ長さのひもを使うので、長方形の縦をy長くすると、横はy短くなる。 【支援4】 ・(正方形の面積) = $x \times x = x^2$ ・(長方形の面積) = $(x+y)(x-y) = x^2 - y^2$ ・(正方形の面積) - (長方形の面積) = $x^2 - (x^2 - y^2) = x^2 - x^2 + y^2 = y^2$ 【支援5】 ・yの値に関わらず、正方形の方がy ² 大きい。 指導に生かす評価
【評価場面】・ノート・観察	解決にむけて乗法公式を使って考えることができる。 <手立て> 具体的な数値で考える活動から、文字式での表し方を考えさせ、比較しやすくするためには、乗法公式を使って展開すればよいことに気付かせる。	
8 本時の学習について振り返らせる。	「今日の学習は、自分で考えて解決できたぞ。」 「具体的な数値から文字を考えればできる。」 「展開はできるけど、文字で表すのが苦手だ。」	

心に残る授業

その82



鎌田 隆 仙

上川教育局教育支援課
義務教育指導班指導主事
特別支援教育
スーパーバイザー

急激な少子高齢化が進む中、成熟社会を迎えた我が国においては、子ども一人一人が持続可能な社会の担い手として、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されています。

このような時代において、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、予測が困難な未来社会を自立的に生きるための資質・能力を一層確実に育成することが求められています。

とりわけ、特別支援教育には、障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した適切な指導や必要な支援を通して、「自立」と「社会参加」に向けて育成を目指す資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の特性の違いによる困難さを踏まえた個に応じた指導・支援の工夫が必要です。私が参観した心に残る授業は、子どもが自分のよさを発揮し、主体的に取

り組む姿を見ることができた小学校自閉症・情緒障がい特別支援学級第四学年算数科「わり算の筆算」の授業です。

五名の児童は、それぞれに学習や生活に対する困難さがありました。学級担任は多動的な傾向の強い子どもに、交流する場面では、教室の前方で、解き方について説明をさせ、子どもの積極性や話したい意欲などの「強み」を発揮させる工夫を授業に取り入れていました。また、練習問題の場面では、子どもが、「個別のペースでやっていいですか」と発言し、学習に集中しやすい環境を主体的に選択していました。

この授業のように、子どもが「特性」を「強み」として生かし、主体的に学習することは、自分のよさを知り、自信をもつことにつながります。さらには、子どもが自分にとって学びやすい方法を理解し、自ら環境を調整して学ぶことで、集団参加に向けた合理的配慮の提供への意思表示にもつながります。

自分の弱い面を自分で補おうとする主体的な行動は「自立」と「社会参加」につながるとともに、教師が困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することが、特別なことではなく、当たり前の工夫であることを再確認させていただきました。

これからも、管内の多くの先生方の授業から、子どもの主体的な姿や手立ての工夫を探っていききたいと思っています。

ICT実技研修講座レポート

当センターのICT実技研修講座では、校務の効率化やICT機器を効果的に活用した指導を目的とした七講座（各講座二回ずつ、計十四回実施）全講座半日日程で実施）を開講しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いくつかの講座が中止となりましたが、たくさんの方の先生方に受講いただいております。

七講座は、エクセルに関する三講座、タブレットPCに関する二講座のほか、プログラミング教育に関するもの、働き方改革に関するものがそれぞれ一講座となっています。

エクセルに関する講座は、「初級編」「中級編」「活用・個別課題解決編」の三講座を開講しています。初級・中級編では、初歩的な数式や関数の使い方から、Vlookup関数等の応用的な使い方、簡単な会計簿の作成等の内容となっています。また、活用・個別課題解決編では、実際に校務で活用しているファイルを持参していただき、利用している上での疑問や課題をその場で講師が指導する内容となっています。

タブレットPCに関する講座は、「入門編」「活用編」の二講座を開講しています。基本的な操作方法から授業にお

ける活用方法についての内容となっております。両講座とも高い人気となっております。タブレットPCの有効活用が期待されておりますので、是非御活用ください。

プログラミング教育に関する講座では、今年度実施となった小学校プログラミング教育について、目的やプログラミング的思考等の理論研修から、Scratchなどのプログラミング、micro:bitの操作等、授業で活用できる内容となっています。

今年度から「ICTを活用した働き方改革講座」を新規に開設しました。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開講できませんでしたが、クラウドサービスやアプリを活用した校務の効率化に併せて、サイバーセキュリティやインターネットの危険性等コンプライアンスにも関わる内容を予定しておりました。次年度も開講を予定しておりますので御活用ください。

当センターでの講座とは別に、出前講座でもICTをテーマにした講座を実施しました。次年度も是非御活用ください。



i P a d 無料貸出しの御案内

上川教育研修センターには、今年度導入した10台を含め、計15台のi P a dがあります。また、研修センターは館内無線LAN環境が整っており、無料で数十台のP C等が接続できるアクセスポイントを設置しております。

当センターを利用した各種講座や各研究団体研修会等において、タブレットP Cを用いた内容で実施してみたいかと思いますが。積極的に御活用ください。

また、各学校や各種研究大会など無料でi P a dを貸出しいたします。校内研修での利用や研究授業などに御利用いただければと思います。なお、ICT実技研修講座での利用予定がある場合や、出前講座、一般講座等での活用予定がある場合は貸出しできませんので、御了承ください。

※貸出しにつきましては、事前に電話にて御連絡ください。

※破損や紛失の場合は弁済していただくことになります。

各種資料の御活用を！

当研修センターの1階には、各種教育雑誌や各出版社の教科書を、3階には、道内はもちろん全国各地の教育関係広報紙や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。蔵書資料は貸出しも行っていますので、ぜひ御活用ください。なお、所蔵資料リストは当センターWebサイトからも御覧いただけます。



【上川教育研修センター Web サイト紹介&受講後調査のお願い】

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>

当研修センターでは、研修内容を勤務先において活用していただくことを願い、一定期間をおいてアンケート調査をお願いしています。アンケート結果は、講座の成果を推し測るための貴重な資料として活用しております。趣旨を御理解の上、御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、アンケートの御回答に当たっては、当研修センター Web サイト上で入力してください。

※この用紙は再生紙（古紙70％）を使用しています。

発行日	令和二年十一月一日
発行	上川教育研修センター
〒	〒070-0036
旭川市六条通四丁目	
電話	電話（〇一六）二四二五〇一
印刷所	東信印刷株式会社
責任者	福家 尚



↑QRコードを読み取ると、アンケート入力ページに移動します。